

寺井俊夫先生の学問のご業績

京都大学名誉教授寺井俊夫先生はご病氣療養中でしたが、去る12月2日ご逝去されました。75歳でした。

ここに、永年にわたる先生のご研究活動とその成果をたたえ、そのすばらしいご業績の一端にふれさせていただきます。

一、建築の伝熱・流体に関するご業績

建築の伝熱・流体問題を数学的方法を用いて明快かつ先進的に解析する方法を研究されました。

今日ではCFD（コンピュータシヨナル 流体力学）や境界要素法が工学の基盤的手法となっていますが、先生は境界要素法と同じ原理である積分方程式による地盤の熱応答計算法にいち早く取り組まれたり、世界で初めて算盤を使った数値流体解析を行われたのはその一例であります。

二、建築の火災安全に関するご業績

火災安全を全体的な視点で考えたシステムを構築、提案されるとともに、火災時の煙流動性状を実験的、理論的に分析し、換気回路網を用いて建物全体として把握することの重要性を指摘されております。

三、建築空間の音響伝播性状に関するご業績

建築空間の熱伝搬理論と似た音響伝搬理論を展開し、その音響伝播性状の様相を明快に分析されています。

以上のように建築の熱・流体・火災・音の各場の研究を包括的に捕らえる手法を自由に駆使した手腕は稀に見るものであり、多くの同種学者に感銘を与えました。

ここにその業績を高く評価いたしたいと考えます。

平成18年12月21日 松浦邦男